

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	痴呆性老人グループホームひまわり
(ユニット名)	4 階
所在地 (県・市町村名)	群馬県前橋市大友町3-22-9
記入者名 (管理者)	原田 真弓
記入日	平成 19 年 8 月 18 日

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用約款の目的と運営方針に基づき、利用者がその人らしく生活できるよう独自の理念を作り、支援している。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入居者のことを考えた理念の中で、共に実践に向けて取り組んでいる。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族には面会の際に、地域の方には運営推進会議や夏祭り時など、自治会役員、民生委員、近隣の方達を招待し、地域で暮らすことの大切さを、理解が得られるよう取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩中などに会えば挨拶をしている程度で、立ち寄っていただくまでにはなっていない。夏祭り等隣近所の方を招待している。	<input type="checkbox"/> 気軽にホームを訪ねてもらえるような雰囲気作りをしていきたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会、老人会などで地域活動には参加していない。年に一度の夏祭り等には、自治会の方々を招待している。	<input type="checkbox"/> 自治会でやっている祭り、文化祭などに参加させてもらえるよう、情報を密にとれるような関わりがもてるよう努めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	施設内だけのケアに留まっており、地域の高齢者への働きかけはしていない。	○	利用者と地域の方々の交流の場所を設け、地域の高齢者も集まれるような機会を設けられればよいと考えている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	以前改善の必要性のあった夜間の包丁などの保管方法については、どのようにしたら安全かなど、すぐに話し合い、改善に取り組んだ。		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	3ヶ月に一度、地域の自治会長をはじめ数名市の担当者などに、状況の報告を行っている。		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	運営推進会議等の連絡は行っているが、市から事業委託等の依頼はない。	○	市との連携を引き続き行い、市町村とともにサービスの向上に取り組んでいきたい。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	左記について詳しく知っている職員は少ないが、必要な利用者がいれば、職員・相談員から活用できるよう働きかけている。	○	知識や情報を共有するために、研修後のフィードバックや勉強会を設ける必要がある。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会はないが、虐待については職員も十分に注意している。	○	知識や情報を共有するために、研修後のフィードバックや勉強会を設ける必要がある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際には管理者が、ご家族様と話し合いを行っている。退居の際は、ご家族には納得していただき退居している。</p>	<p>○</p> <p>契約の際には、今の状態でなくなってしまったときのこともふまえ、話し合って了解を得ておく必要がある。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>特に、機会を設けることはしていないが、毎日の生活の中でその都度話を聞き、対応するように努力している。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者の近況報告は家族の方が面会の時に伝えている。また、職員の異動については個々に会った時に挨拶をし、エレベーター前に顔写真付きのボードをかけている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>1階エレベーター前にご意見箱を設置している。苦情、意見のあったときには、その都度対応している。重要事項説明書に担当者の氏名電話番号が記載されると共に、市役所や国民健康保険団体連合会の電話番号も記載され苦情処理の対応や処理方針が説明されている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>全体会議や毎週カンファレンスにて意見や提案を聞く機会を設けている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>各ユニットごとに職員を配置、早出・遅出等で柔軟な対応ができるようにしている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者さんにとっての環境作りに配慮した配置を、話し合いながら行っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<input type="radio"/> 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修は、院長が積極的であるため、研修受講者一覧表を作成し、誰もが交替で受講できるよう管理を行っている。	<input type="radio"/> 研修後の他職員へのフィードバックの機会を増やしていきたい。
20	<input type="radio"/> 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修への参加や、他グループホームからの実習の受け入れなどを行い、サービスの向上に努めている。	<input type="radio"/> 当ホームから他のグループホームへの派遣の機会を検討したい。
21	<input type="radio"/> 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者がカンファレンス等の機会を利用し、職員の意見・悩みを聞きストレスの解消に努めている。また、新年会、忘年会、設立記念日、ボウリング大会等の機会に、管理者に愚痴を言ったり、職員同士で愚痴を言い合ったりしてストレスの解消に努めている。	
22	<input type="radio"/> 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	研修の復命書作成を義務付け、年度末に各部署の研究発表を行い、全職員が日頃の成果を共有できる機会を設けている。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<input type="radio"/> 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人自ら話を聞くことが難しいことがあるので、家族の方のお話を聞くようにしている。	<input type="radio"/> 利用の申し込みは家族がしてくることがほとんどのため、事前に本人と面会でき、お話を聞く機会が持てるとういと思う。
24	<input type="radio"/> 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	担当者をご家族の話に耳を傾け、不安なこと、求めていることなどを理解し、受けとめるよう努力している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当者が十分に家族と話し合い、「その人」の今できる事、できない事などを見極め、サービスを行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	わかる方には事前に説明し、行っている。利用者に場の雰囲気に慣れていただくために、レクなどに参加してもらっている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	台所の手伝い(野菜の皮むき、食器拭き)、洗濯物たたみなどの家事動作を一緒に行ったり、散歩に出たり、かるた取り、あやとり、談話などをしながら過ごしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会が支払いの時期のみの月1回に限られてしまう家族も多く、「お任せします。置いてもらうだけでありがたいです。」と、関係を深める事ができずにいることもある。	○	日々職員が違うため、ご家族来所の際、話をしたことなど職員が情報を共有できるように心がけている。もう少しご家族が利用者本人と関わりが持てるように支援をしていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	施設での行事、苑外行事の際、家族への声かけを行い、一緒に参加していただけるよう働きかけ、本人と家族の関わりの機会を設ける。	○	入居時には本人とご家族の関係について詳しく聞くようにしており、訪問の際には、一緒に過ごしていただいたり、行事などを通じ一緒に行動していただく機会を設けている。やはり、預けきりというご家族もいるので、どのように関係を作っていくか検討中である。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が家に帰りたい、あの場所に行きたいと言われ、家族に伝えてもかなわない事が多い。	○	職員は昔話を聞いたり、他の場所へ散歩へ行き、気を紛らすのが現実。年に一度くらい家族のもとに連れて行ってもらう機会がもてるよう、家族に協力の呼びかけなどを行っている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員が一人ひとりの入居者同士の関係を把握しているため、個人が孤立することのないように努めている。入居者が共に協力し合えるよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居される方は併設の病院あるいは施設へと移る方が多いため、ご家族と会う機会も多い。他の施設へと移っていく方とのお付き合いはあまりない。	○	ホーム便りを作成して送付したり、敬老会などのホームの行事を企画して、お誘いしたい。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望を聞くには、難しい状況にあるため、家族の方と相談しながら本人にとって良い方向で検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴などは普段の会話からとか家族の方に聞くなどしている。居室には、自宅で使用していた家具などを持ち寄り、生活している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	心身状態は、毎日バイタルチェックや排尿、排便などから日々観察している。過ごし方は各自違うものの、レクリエーション、散歩など日々行って頂いている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族訪問時、近況報告をしながら意見を聞き、それをもとに作成担当者を中心に、職員が話し合い、両者の意見を反映しながら、介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画には作成月日が記載されており、3ヶ月毎にご家族、作成担当者で話し合いをもちながら計画を立てている。入居者の状態に変化が生じた時には、随時見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や特記事項など、個々の介護記録に記載し残すとともに、介護支援経過に記録し、職員がいつでも見られるようにしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の状態に合わせ必要なサービスを提案し、支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署に対して、年2回の避難訓練、消防訓練を依頼するとともに前橋警察署にもグループホームの運営等について協力をお願いしている。	○	ボランティアの受け入れがあると良いので、検討していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じてリハビリ等を希望されている方には、リハビリ担当者と相談をしながら利用している。	○	家族の意見も取り入れて、色々な角度からサービス内容について検討していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	ホーム内にもケアマネジャーが降り、計画作成者と話し合いをしてケアマネジメントをおこなっているため、現在までのところ、地域包括支援センターを利用することは少ない。	○	今後、情報交換を行い、連携がとれるようにしていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2度、併設病院から医師が居宅療養管理指導にみえ、入居者の健康状態の把握をしている。その他、受診を希望する入居者については、併設病院の他の科を受診している。	○	受診時には、家族の積極的な付き添いをお願いしていきたい。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>重度化にならないと家族と話し合うことはなかった。今後は利用者も高齢であり、日々状態が変化していくため、早い時期からの医師、家族、本人、職員と話し合う機会を設けていきたい。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>グループホームひまわりとして、どの段階まで入居者を支えていくのかを、きちんと話し合いを行ったことはないの、家族と話し合う機会をつくっていきたい。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの配慮は行っているが、日々の様子、健康状態など細かく記録に残し、職員間での情報として共有している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	散歩やレクリエーションなど行う際、入居者に合わせた説明を行い、自ら決定してもらっている。入居者の希望を取り入れられるよう支援をしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度一日、一週間の計画表があり、生活されている。その中で入居者が参加するかしないかは決定している。時間にゆとりを持ち、入居者のペースに合わせて過ごしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望される方は、家族と外出しパーマをかける人、併設の施設の理美容を利用しカットするなど、希望に合わせた支援を行っている。身だしなみは一人ひとりおしゃれを楽しまれている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、一人ひとりの好みを配慮はできないまでも、職員が食べやすいものを選び献立を立てている。野菜の皮むきなどできる人には手伝っていただく。片付け、食器すすぎ・拭きなど、役割を担っている職員とともに会話を楽しみながら食事を取っていただく。	○ 利用者と一緒に献立を立てたりしたい。(月一度でもよいので)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	医師より制限がない限り、家族より差し入れる菓子類を、職員が預かりおやつ時に出している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を用いパターンを把握し、排泄時の誘導が必要な人にはさりげなく行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、週3回(月・水・金)行っている。入浴の際には、時間に余裕を持ち、ゆったりとした気持ちで入浴していただいている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の散歩、体操、運動等の生活のリズムを通して安眠できるよう支援している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	「できること・できないことシート」を活用し、個人の情報を確認しながら洗濯物たたみ、食器拭き、後片付けなど各人が役割を持っている。外に散歩へ行ったり、歌をうたったりなど、気晴らしの支援なども行っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者一人ひとりの希望や力量に応じて支援しており、金銭管理のできる入居者には買い物をしてもらい、レシートを添付し家族に報告している。年に一度買い物ツアーを行い、職員等が付き添うもののお金を使う機会を設けている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望に添って行くことはできないが、散歩や屋上への日光浴等行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月に数回、お花見、イチゴ狩り、七夕、外食など、他の入居者と希望される家族とともに外出する機会がもてるように支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を使用したい入居者は、職員が付き添い、併設病院の公衆電話を使用している。手紙も個人的に書いたりしている人もいる。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族様等訪問された際には、自室でゆっくり過ごしていただいている。	○	もっと頻回にご家族に訪問してもらえよう声をかけていくようにしている。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のないケアについては、併設の介護老人保健施設と合同の実習を行い、身体拘束を行わないことを職員は正しく認識している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中居室には鍵をかけないが、エレベーターは一階を出るとすぐ車の往来の多い道路になっているための危険性を考慮し、暗証番号により開閉する。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中自室や居間で過ごされたりしているため、職員は入居者一人ひとりの所在、様子を常に把握している。夜間は、2時間毎に巡視を行い、安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁、缶切り、皮ひき、はさみ、食器洗い洗剤は、決まったケースに入れ、台所棚の上段にて管理している。夜間ユニットに職員がいないユニットのものをケース及び袋に入れ、ステーションにて預かり管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	勉強会を通じ知識を習得する機会がある。火災に関しては、年に二度訓練を行っている。職員は常に入居者一人ひとりの状態を把握しているため、対応できるように取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年に数回、看護部主催の研修会へ参加している。急変時応急マニュアルを作成し、利用している。	○	マニュアルに基づく実習の機会をつくっていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の避難訓練を行い、利用者が安全に避難できるようにしている。また、病院より地域の人々の協力をお願いしているので、ホームでも協力を得られるようお願いしている。	○	様々な形での災害時の訓練を行い、万全を期していきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	現状報告などの際、一人ひとりに起こり得るリスクについても家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝決まった時間に体温、週に一度血圧測定を行うとともに、日々入居者の変化に気を配っている。気づいた際には、すぐに看護師に報告し、指示を仰ぐ。その日の勤務者にはすぐに情報を伝え、日勤者→夜勤者→翌日の日勤者へと申し送り事項として情報をわかり易く伝えることになっている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人別に、朝、昼、夕に分封、個人ごとに名前をつけ、セットしている。飲んだ後は服薬チェック表で管理している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日排便チェックを行っている。便秘時には、水分を多くとって頂くなどの工夫をしている。毎日決まった時間にラジオ体操をしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後歯磨きを行っている。夕食後には、義歯を預かりポリデントに浸けておく。清浄綿を用い、口腔内の汚れをとる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後、食べた量のチェックを行っている。極端に食量、水分量の少ない場合は、看護師に報告し指示を仰ぐとともに、きちんと食べた量などの把握を行うために、食事水分チェック表を設け、職員誰が見てもわかるようにしている。	○	管理栄養士によるカロリー計算や献立の見直しなどを行い、支援の質を高めたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	病院に併設され、インフルエンザ、MRSA等感染症に対するマニュアルが整備され、看護師の指導も行われ実行されている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	土曜日には全食器類、日曜日には調理器具、まな板・ふきん等は毎日漂白を行っている。食材は業者ごとに毎日配達され、すぐに各ユニットに配布し冷蔵庫で保管している。冷蔵庫掃除も週に一度行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物前には「グループホームひまわり」と案内板を設置、入口には、入居者の作品が掲示されており、1Fエレベーター入口にも「グループホームひまわり」の手作りの表札、観葉植物を置くなどの工夫を行っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の日常の家庭生活と同じ生活が送れるよう、食堂兼居間と調理場の間には、障壁等の仕切りはない。エレベーターを降りた所には、四季おりおりの花を飾ったり、行事(お正月、おひなさま等)には飾り物をしたりの工夫も行い、居心地よく過ごしていただけるよう配慮している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られた共有空間スペースの中で、食卓、応接セット、テレビが設置されており、思いおもいに過ごすことができる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	各居室には、家庭から持参した整理ダンス、観葉植物、絵な どが飾られ、居心地よく過ごせる配慮がされている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	温度調整は、その日の気温によってこまめに調整している (居室、居間兼食堂)。調理時における臭いもなく、換気も適 切に行われている。	○	冬期の乾燥対策、風邪予防として加湿器の導入を検討し ていきたい。
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れる ように工夫している	手すりの設置、段差のない床で、安全な移動ができるようにな っている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	トイレ・浴室・居室には、分かりやすいよう表示をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	屋上菜園があり、草取りや野菜の世話などを行っている。	○	ベランダは危ない所と決め付けず、プランターを置き、花を 育てたい。

## V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

日常生活では体操、散歩、買い物、お花見、バラ園見学、夏祭り、バスレク等ホームにとじこまらないよう家族に協力をお願いし、計画的に行事を行っている。屋上には家庭菜園があり草花や野菜を栽培し、趣味をいかし人間らしく毎日が送れるよう細心の注意を払い支援をしている。併設病院の診療所から往診を受け、定期的に診察や健康診断を行い、看護師の配置やリハビリ等を活用し、入居者の自立支援を行い、家庭復帰した例もある。